

社会生活を豊かにする「問い」の創造と探求する力もつ生徒

— 中学1年「モノカルチャー経済 変えるのか 変えないのか～アフリカ州～」の実践から —

1 単元のねらい

モノカルチャー経済による貧困問題が、アフリカでくらす人々の生活にどのような影響を与えているかを追究することで、アフリカの地域的特色を理解する。その上で日本の対アフリカ貿易や支援の実態を知ること、アフリカと我が国の関係の理解を深めるとともに、アフリカの国々の貧困問題解決への方策を考える。

2 授業の構想

(1) 子どものとらえについて

生徒は、「世界各地の人々の生活と環境」の単元において、発言やワークシートでアフリカ州に対して、次のようなイメージをもっていた。強い日射しをあびて、ゾウやキリン、ライオンが生息する野生動物の楽園である。さらに広大な土地があり、ほとんどが砂漠だけである。他には、内戦、飢餓、貧困、差別、病気、さらには「部族がいて上半身は裸でのんびりしている」「農業技術を学ぶ気がないので、飢餓に苦しんでいる」「子どもの数が多いので食糧が不足している」という生徒もいた。小学校の学習でも扱っていない地域であり、基盤となる知識も少ないこともあるが、このように生徒のアフリカのイメージが大変に偏っていること、ネガティブなものが多いこと、さらには断片的な情報に基づく歪んだ意識を抱いていることが分かった。

確かに、アフリカ州でくらす人々は、貧困、人口爆発、食糧不足、民族紛争といった多くの問題に直面している。そこで、本単元の学習を通して生徒たちがアフリカの現状を知り、貧困問題の因果関係を追究する姿や、日本の対アフリカ貿易やアフリカに行っている支援の実態を知り、我が国への理解を深めようとする姿を期待する。また、本学習が自分のくらしや生き方の見識を広げ深めるものであってほしいと願っている。

(2) 本単元において求めたい姿とそのための手立て

単元は、学習指導要領の「内容(1)世界の様々な地域 ウ世界の諸地域(ウ)アフリカ」を“モノカルチャー経済下の人々の生活”という主題を設定し全5時間で構成したものである。

現在アフリカ州ではAU(アフリカ連合)を立ち上げ、国連加盟国は全体の1/4を占めている。かつスマートフォンで使用するレアメタル鉱山やカカオ・コーヒーのプランテーション農業など、日本が必要とする資源の輸出国であり、日本企業が積極的に企業進出を始め、身近に感じることができる。さらに日本にとっても関わりの深い地域である。しかし、アフリカにくらす人々は貧困に苦しんでいる。これは、いくつかの一次産品の貿易に頼っているモノカルチャー経済が原因の1つであると考えられる。そこで“アフリカ州でくらす人々は、今後モノカルチャー経済を変えるべきか、変えないべきか”という単元の問いを立て、実際にモノカルチャー経済から脱却した国、脱却できない国の生活・文化、歴史的背景、主要生産品、主要国の経済状況と生産物、貿易の様子、主要生産品という視点を設定する。そして調べた結果を根拠にして、これからのアフリカ州の在り方を考える。合理的な話し合いをするために、互いの考えを視覚化する工夫をし追究する。

そして、調べた結果を根拠にし、アフリカの脆弱な経済基盤の背景を探る場面である。変えた国の共通点、変えなかった国の共通点や比較して分かったことから、モノカルチャー経済を「変える、変えない」というアフリカの人々の判断は、実際には旧宗主国など先進国との結び付きのもと

「変えられる、変えられない」という判断であるということに気付いてほしい。

本単元の最後では、日本とアフリカとの貿易や、日本のアフリカへの支援の実態から、日本とアフリカの経済関係を考える。ここで自分の考えを再考・吟味できる資料を示唆し、日本もアフリカのモノカルチャー経済に大きな影響を与えている国の1つであることを知り、「変える、変えない」という判断は、私たちの判断でもあることに気付くことで、アフリカの地域的特色を理解することにつながると考えた。みんなで合意形成した答え（解）に対して、新たなる資料と出会い「本当に、そう言えるのか」「どうして、そう言えるのか」と問いを持ち続け、主体的協働的に再考・吟味し、新たなる答え（解）を生み出す力をつけることができる。

3 展開計画（全5時間）

次	時	主な学習と具体的な学習・内容	◇追究する子どもの姿
1	1	<p>○モノカルチャー経済の歴史と産業との関わりを追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本にあるモロッコ・モーリタニア産のタコ、ガーナ産のカカオチョコ、ケニア産のお茶の実物を見て、日本のたこ焼き、チョコレート、お茶などの原材料を、輸入に1ヶ月～2ヶ月かかる遠いアフリカから、なぜ輸入しているのか考える。 アフリカでくらす人々は、同じ原材料を大量生産して安く売る方法で、豊かな生活をしているか、考える。 アフリカの人々が、モノカルチャー経済を望んでいるのか望んでいないのか、貧困の写真も見て、みんなで“単元の問い”をつくる。 	<p>◇子どもたちが出てきた疑問を整理・焦点化し、問いを創造する。</p> <p>整理・焦点化し「疑問」から「問い」へ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>・安いから。 ・良いものものだから。 ・農薬がないから。 ・貧困から脱出。 ・他の地域ではとれないから。 ・他地域より安く企業の利益がでるから。 ・飛行機があるから ・飛行機があるから。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>・豊かな生活ができていないのに、なぜ同じ原材料を大量生産して安く売っているのかな</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・モノカルチャー経済は貧困と関係があるのかな</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><u>単元の問い</u></p> <p>アフリカ州でくらす人々は、今後モノカルチャー経済を変えるべきか、変えないべきか</p> </div>			
	2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> これまでアフリカでモノカルチャー経済を変えた国、変えなかった国を比較しメリット・デメリットを、単元の問いを判断する材料として調べる。 モノカルチャー経済を変えた国であるエジプト、南アフリカ、モロッコをグループAとし、変えなかった国であるガーナ、ケニア、コートジボワールをグループBとする。 変えた国と変えなかった国の理由について、以下の①～⑥の視点で調べる。①～⑥の視点から、何を調べると、どのようなことがわかるか予想を立て、資料からモノカルチャー経済を変えたことによる、あるいは変えなかったことによるメリットデメリットをそれぞれ調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 変えるべき・貧困が続くから。農作物は気候などで不安定だから。鉱山物は有限だから。 変えないべき・国際競争力が二次産品では低いから。今が一番よい状態だから。 一人当たり国民総所得を地図帳で調べると、エジプト1800\$, 南ア5820\$, モロッコ2580\$で1500\$以上。ガーナ670\$, ケニア770\$, コートジボワール980\$は1000\$以下だということに気付く。 <p>◇変えた国と変えなかった国について「なぜ変えたのか、なぜ変えなかったのか」の現状を①～⑥の視点で調べ、比較して、モノカルチャー経済を変えたことによる、あるいは変えなかったことによるメリット・デメリットに分類する。</p>

4	<p>①歴史的背景, ②主要生産品, ③主要国の経済状況と生産物, ④貿易の様子, ⑤主要生産品とアフリカにらす人々の生活との関連, ⑥旧宗主国など先進国との結び付き。</p> <p>・調べ方は, 1つの班で1つの視点とし, メリット・デメリットをフラッシュカードに書き, 次時の準備をする。</p>	<p>・(例) 奴隷制度は, 人権を無視し, 労働意欲も欠くことになるからモノ経済を変えた国のデメリットに分類。</p> <p>・(例) 日本との貿易でアフリカの国々は儲かっているのではないのでモノ経済を変えた国のデメリットに分類。</p>
	<p>・比較して分かったモノカルチャー経済を変えたことによる, あるいは変えなかったことによるメリット・デメリットのフラッシュカードを黒板に貼り, 分類した理由を発表する。</p> <p>・「モノ経済を変えるべきか, 変えないべきか」における自分の立場をはっきりとさせ, 根拠となる理由を発表する。</p> <p>・本時の問いを投げかけ, 班で話し合う。ただし, 自分たちが調べた視点①～⑥を中心に答えを出す。</p> <p>・学級で発表する。</p> <p>・補助発問「変わったほうがいいけど, 変わらない場合, どうすればいいのか」</p> <p>・単元の問いに振り返る。</p>	<p>・(例) 衛生面の整備をモノ経済を変え国のメリットにした理由は, 平均寿命も長くなり活気がでるから。</p> <p>・(例) プランテーション農業をモノ経済を変えなかった国のメリットにしたのは, 今でも主要な輸出品になっているから。</p> <p>・“単元の問いを”を考慮することで, 将来のアフリカ州と先進国との関係に気付く。</p> <p>◇貧困から脱するには, モノ経済から脱することだ。しかし, 現実に脱していないのも確かだ。なぜだろう。</p> <p>・一度出した解を, もう一度自分で, 今までの資料をもとに, 単元の問いのふり返りをする。</p> <p>・モノカルチャー経済を「変える, 変えない」というアフリカの人々の判断は, 実際には旧宗主国など先進国との結び付きのもと「変えられる, 変えられない」という判断であるということに気付く。</p>
2	5 <p>○モノカルチャー経済と自分の生活の結びつきについて考える。</p> <p>・旧宗主国でない先進国のうち, どの国や企業がアフリカ州と関係を深めているか予想し, 理由も考える。</p> <p>・どのくらいの日本の企業がアフリカ進出し, どのようなことをしているか予想する。アフリカ進出の日本企業の資料と出会う。</p> <p>・「単元の問い」の解を前時までに学習したことを根拠に考え, アフリカ州の地域的特色を理解する。</p>	<p>・アメリカ ・中国 ・ロシア</p> <p>・日本 ・インド</p> <p>・レアメタルを掘りに5社くらい。</p> <p>・稲作を教えて2社くらい。</p> <p>・海外青年協力隊, 政府 ODA。</p> <p>・こんなにも多くの企業が現地進出していたのか。政府援助金も多い。</p> <p>・変えないべき・加工貿易の日本にとってアフリカ州は原料調達国として重要な地域である。しかし, 貿易摩擦状態は改善したい。</p> <p>・変えるべき・豊富な鉱山資源のある地域だからこそ, 現地に進出し, アフリカの人々を雇用し, 賃金を払い貧困から脱出させる。日本の企業が工業団地の周りを整備する (地域貢献)</p>

4 授業の実際

(1) 問いをもつ場面

アフリカ州を生徒にとって身近な地域に感じるために, 教材として「タコの酢の物」「ガーナ・チョコレート」「ケニア茶」など日本で売られ, 有名な商品を手に取り, 触り, 臭いをかいだりした。こんなにも多くの商品がアフリカ州から来ているのに, なぜ写真のように, 都市部とスラム街があるのだろうか」と生徒は疑問をもった。そこで, 「なぜ, 日本にたくさん輸出しているのに,

「貧富の差ができるのか」という疑問を解決するため、教師はモノカルチャー経済の顕著なガーナ、ケニアとそうでないエジプト、南アフリカ共和国の輸出品のグラフを提示した(図1)。すると生徒は、「どうやら一次産品に頼っているガーナやケニアに対して、エジプト、南ア共は二次産品である」ことを発見した。

さらに生徒は総輸出が1次産品より2次産品の方が多くことに気づき、いくつかの1次産品ばかりに頼った輸出は、2次産品を輸出する貿易より利益が少ないことにも気づいた。

そこで、教師はいくつかの1次産品に頼った貿易には、どのような問題があり、貧困へとつながるのか考えるために、地図帳や白地図を提示し、作業学習をしながらアフリカの自然や気候について考えさせた。生徒は、アフリカの自然や気候を鑑みて、多種多様な農作物を育てることができるのかと考えた。また、熱帯や乾燥帯であり、砂漠など厳しい環境であることがわかった。

教師は生徒に「それではモノカルチャー経済から脱することはできないのか」と投げかけた。生徒も、貧困から救うために、どうすればいいのか悩み出した。結局、自分たちで調べて、アフリカ州の人々を貧困から救う方法を考えることになった。こうして、単元の問いが完成し、生徒は解決に必要な知識や技術を自ら獲得するようになった。ここに『単元の問い』「アフリカの人々は、モノカルチャー経済を変えるべきか 変えないべきか」が主体的に創造された(図2)。

社会科地理的分野「アフリカ州」 1年1組

なぜ、貧困なのか？

【疑問をもつ】
 アフリカ州の政府は一体何をしているのか？
 なぜ、自国で産したものを消費せずに、輸出するのか？
 いつから貧富の差が大きくなったのか？
 貧富の差を出た原因は、どこにあり、どうなっているのか？
 スラムのように困っている人が、いっぱいいるのに、なぜ国は機能しているのか？
 なぜ、たくましく生き延びているのか？
 植民地時代が終わったのに、なぜ経済が豊かになったのか？
 紛争の時、貧富の差が広がった。どうやって貧富の差を狭めているのか？
 マサライ族は伝統的な生活を維持しているのに、なぜスラムの人はダマか？
 カカオ、茶、タバコの生産などに、なぜアフリカ州は向いているのか？

写真 エジプト・カイロ 写真 ケニア・ナイロビ

エジプト 南アフリカ共和国 ガーナ

輸出 22.7% 1次産品 51.7% 2次産品 21.9% 3次産品 2.7%

比較して違いは？

○ガーナやケニアはエジプトや南アフリカ共和国に比べて、
 ①1次産品(農水作物、鉱山物)に頼っている。
 ②輸出品目のレパートリーが少ない。

↓
モノカルチャー経済

なぜ、生活が不安定で、貧困の原因か？

図1：授業の流れ①

なぜ、生活が不安定で、貧困の原因か？

それは、アフリカ州の自然(キリマンジャロのような高い山や高地、サハラ砂漠のような広大な砂地や泥地、ナイル川流域の水害など)、またアフリカの気候(熱帯雨林のスクールや暑さ、乾燥気候の砂漠や水不足など)厳しい環境のもとでの農業や水産業は収穫高の不安定さがある。さらに、人災・天災による鉱山の停止などがある。

じゃ、ガーナやケニアは貧困から救い出せないのか？

○一次産品から抜け出して、二次産品を作るようにする。
 ○一次産品のレパートリーをもっと増やす。
 ○現地人に技術を教える。
 ○学校を作って、教育が必要である。
 ○たくさん種類の資源があるので、多くのモノを輸出する。

本当にモノカルチャー経済をやめていいの！

単元の問い
アフリカの人々は、モノカルチャー経済を変えるべきか 変えないべきか
 ~事実(資料)を根拠に、自分の立場をはっきりさせよう~

さあ、あなたはどちらか？
 根拠づくりをしましょう。
 班の人と協力して、1つの分野の資料の読み取りを行います。
 調べ終わった時に発表して、他の班の分野を聞き、根拠を作り、自分の立場をはっきりさせよう。

貧困(貧しい)とは？
 ・食べ物が少ない。
 ・お金がない。
 ・家がいない。
 ・仕事がない。
 ・ライフラインの整備がない。

【分野】
 ①歴史的背景 ②先進国との結び付き
 ③貿易の様子 ④経済状況(と生産物)
 ⑤人々の生活(と生産物)

ではモノカルチャー経済から脱出した国(ガーナやケニア)は、自国の資源をどう活用して、自国の経済をどう発展させているのか、自分たちも考えてみよう！

貧富の1つの基準として、
国民総所得を地図帳で
 確認しておこう！

図2：授業の流れ②

(2) 問いをもち追究する場面

生徒は、モノカルチャー経済を変えた国（南アフリカ共和国・エジプトなど）とモノカルチャー経済を変えなかった国（ケニア・ガーナなど）、それぞれについて、①歴史的背景、②先進国との結び付き、③貿易の様子、④経済状況、⑤人々の生活のメリット・デメリットを調べることにした。その結果をグループごとに一覧表にし、学級で発表した。このメリット・デメリットをもとに、根拠を考え、単元の問いを解決するようにした（表1）。

【メリット・デメリットの例】

表1：貿易に関するメリット・デメリット一覧表

③貿易の様子	モノ経済を変えた国（南アフリカ共和国・エジプトなど）	モノ経済を変えなかった国（ケニア・ガーナなど）
人々の生活や国にプラスになったこと（メリット）	・輸出額より輸入額が多く、もうけている国がある。それは生産できるものが多いから。	・輸出額が輸入額を上回っている国もある（ガボン、コンゴ、赤道ギニア・）
人々の生活や国にマイナスになったこと（デメリット）	・エジプト・南ア共和国も、ほとんどが輸出額が輸入額を下回り損をしている。	・ケニアは輸出額が輸入額を下回り損している。（金やカカオがなくなったら終わり） ・ケニアやガーナは生産額が少ない。

貧困から脱するためにモノカルチャー経済を「変えるべき」「変えないべき」の根拠になる考えは示された。そこで、変えないのは貧困のまま現状を維持することになるので、やはり変えるべきだと学級で結論がでた。ここで生徒の思考をゆさぶるため、教師は次のような投げかけをした。

1960年アフリカの年と言われ、次々と独立してから50年以上経過した。なぜ、今も、ほとんどの国がモノカルチャー経済なのか？

生徒は、次のように答えた。

- ・旧宗主国に頼る方が楽だから。
- ・二次産業の国際競争力が低いから。
- ・日本など先進国が一次産品を安定して買っているから。
- ・もっと貧困になると怖いから。
- ・昔のプランテーション農業が根強く残っているから。
- ・国や国民の所得が少なく資金がないから。
- ・インフラ（電気・ガス・水道・道路など）の整備が遅れているから。

このように、生徒たちは、実はモノカルチャー経済に端を発する貧困問題は、アフリカ州の人々が脱する脱しないを決める力はなく、旧宗主国であるヨーロッパ州や先進国が決められていることに気付くことになった。そうなれ



図3：授業の流れ③

ば、アフリカ州を貧困から救うには、アメリカのような先進国、つまり日本がどのようにアフリカの国々に関わるかが、とても重要であることに気が付き、つまり自分たちが、どのようにアフリカ州に関わっていくことが、貧困問題を解決することになるか、十分に考え、話し合うことが重要であることを学習した(図3)。

以下は、生徒の振り返りである。

変えたいけど、変えられないと思いました。私は、もちろん変えたいと思います。その方が、アフリカ州の人々へのメリットも大きいし、アフリカ州の人々が持つお金も増えます。
しかし、アフリカの人々は教育を受けていないから、一部の人の利益だけが先行し変えられないと思いました。技術も大切ですが、教育を受けられる環境を整えることが重要だと思いました。(生徒A)

5 おわりに

成果については、社会科部の「問いの創造～主体的に問題解決～再考・吟味～新たな疑問」という単元構成を組むことができた。「単元の問い」と「単元構想」の関係も明らかになった。そして、「学び続ける生徒を育成」するのに、生徒の思考をゆさぶることが重要な鍵を握っていることもわかった。本単元において、最終的に生徒は、アフリカ州の人々をモノカルチャー経済からくる貧困から脱するために、日本や自分が関わらないといけないことを理解し、認識できた(図4)。しかしながら、日本で売られているチョコレート100円が、フェアトレードという形の貿易で輸入すると、数百円に上がってしまう事実をつきつけ、「これでも、あなた(生徒)は、買いますか?」という問いには、黙ったり、悩んだりする生徒がほとんどであった。まさに、問い続ける生徒であった。

次の機会には、社会的事象の価値を判断するような単元を構成し、より高いレベルの資質・能力を育てることも、1年生の発達を考えると、後半に必要な単元構成である。次のステップは、発達を意識した資質・能力の育成に力を注ぎ、「学び続ける生徒」の育成をしていきたい。以下は、実社会や自分の生活に照らした思考を促した結果、生徒の思考が広がったり深まったりしたことがわかるふりかえりである。



図4：メリット・デメリットの発表の様子

先生から「フェアトレードで輸入された高いチョコレートを買うのか?」と聞かれ、正直、悩みました。自分のおこづかいにも限りがあります。でも、アフリカ州の人々を貧困から救うために、私ができることをしないと何も変わらないことも学習してわかっています。でも、実際に買えるか、私には自信がありません。どうしましょう。(生徒B)

(文責 岡田 昭彦)